

令和2年度第3回浜松市美術館協議会会議録

1 開催日時 令和3年3月26日(金) 午後1時30分から午後2時30分

2 開催場所 浜松市美術館 2階講座室

3 出席状況

(出席委員 6人)

委員 瀧口 裕章 委員 片桐 弥生 委員 大城 眞弓

委員 内山 正己 委員 村松 厚 委員 沖村 清美

(欠席委員 2人)

(出席者の職氏名)

市民部文化振興担当部長 中村 公彦 浜松市美術館長 飯室 仁志

浜松市美術館長補佐 高山 和也 秋野不矩美術館長 吉川 利行

主幹 石田 博基

4 傍聴者 0人(一部非公開)

5 議事内容 審議事項

(1) 令和3年度浜松市美術館事業計画について

(2) 令和3年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について

(3) その他(非公開)

6 会議録作成者 美術館美術振興グループ 石田博基

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音有

8 会議録

- 1 開会 (高山館長補佐)
- 2 浜松市美術館協議会会長あいさつ (瀧口会長)
- 3 浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ (中村部長)

審議事項

- (1) 令和3年度浜松市美術館事業計画について
(事務局 石田主幹から資料に基づき説明)
- (2) 令和3年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について
(事務局 吉川秋野不矩美術館長から資料に基づき説明)
- (3) その他について (非公開)
(事務局 飯室浜松市美術館館長から説明)

- (1) 令和3年度浜松市美術館事業計画について

瀧口会長：オリンピックは7/23-8/8までだが、スポーツの活動のその裏で芸術活動も盛んにさせるべき。前回の東京オリンピックの時も、東京にある美術館・博物館で色々なイベントが組まれたが、オリンピックの時期に重なる藤井フミヤ展の時には何かオリンピックと合わせて考えているか？

飯室館長：当初、浜松らしさ日本らしさとしてオリンピックに合わせて考えていたのは民藝展。残念ながら藤井フミヤ展では考えていない。現在、日本らしさとしてみほとけ展をやっているがその流れの一つとして考えている。

片桐委員：予算でデジタル経費とあるが、ピープルカウンター等のほかに将来的に考えていることは？

飯室館長：その他にはキャプションにあるQRコードを読み込むと学芸員の解説が聞けるというようなことも将来的に考えている。

内山委員：この年間計画で県外から人が来ていただけるか疑問である。中々足を運んでいただけるような企画ではないように感じられる。美術館は人を呼び寄せる大きな存在であってほしい。そのような気概・予算でやっていただきたい。予算が前年度と対比して減になるのでなく、拡大して行ってほしい。

飯室館長：現在の仏像展は非常に県外からの問い合わせが多い。

大城委員：新聞で大々的にPRしている。年配の方は来たいという方が多い。「おっさまトーク」のイベントがよいと感じる。

飯室館長：昨日の10時からのイベント「おっさまトーク」は住職からぜひやらしてほしいという声が多く、イベントも時間をオーバーして盛り上がった。

村松委員：今回のスケジュールを見ると少し地味に感じる。わざわざこのために行きたいという企画が必要。予算の規模を見ると課題とを感じる。

芸能人とかを呼ぶのはいいと思うが、あまり重なるとどうかと思う。去年・一昨年と比較するとワクワク感が薄く感じる。

沖村委員：コロナで県外に行けない時に、仏像展の関係で色々な情報が入ってくる

と、近くのお寺や出展された仏像のお寺に出かけてみようというきっかけになり、地域の活性化になるのでは。民藝展もちょうどプリンス岬に聖火がくる時と重なってオリンピックとコラボしていけば浜松の魅力の発信になるのでは。

瀧口会長：民藝展は、高林邸を取り上げることによって民藝活動を市民に知ってもらうよい機会となる。

(2) 令和3年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について

大城委員：秋野不矩美術館の暑い時期の展覧会を考えると道に日陰がないのが残念。

内山委員：県立美術館には檜があってよい。秋野不矩美術館については、また来てくださいとは中々言えないような気がする。楽しくあの坂を登れるとよい。

吉川館長：日陰をつくることは今の所は考えていない。

片桐委員：特別展の時期が5～7月となっているが、遅くないか？4月、5月は？

吉川館長：お客様に秋野先生の作品が少ないことを指摘された。来年度は4月から所蔵品展を考えている。その後の特別展は調整でこの時期になった。

村松委員：日本画の現代アートが増えてきている。アートセンターでも日本画を选考して現代アートの方に行っている人がいる。秋野不矩美術館では日本画の幅広さを展示する企画はあったか？

吉川館長：2、3年前に地元作家のダブル優の企画があった。日本画であったが斬新であった。秋野不矩美術館という冠がついているので全く関係ないものを持ってくるのは難しい。秋野不矩と絡めながら考えていきたい。

(1)と(2)を合わせた意見

瀧口会長：共催という形でメディアが入っているのがPRという面で非常によい。様々な展覧会を呼び掛けて展開してもらいたい。

内山委員：秋野不矩美術館のスケジュールを見ると2～3月とギャラリーが空いているが、所蔵品展はやらないのか？秋野不矩の作品が少ないという意見があるのなら、こういう時期を活用したらよいのでは。

吉川館長：監視が必要となるためギャラリーでの開催は難しいが、2次資料的なものの展示は可能かもしれない。ギャラリーへ申込する人もいるため調整して考えたい。

瀧口会長：浜松市博物館と提携して博物館で所有しているようなものを民藝展で展示したりしないのか？

飯室館長：美術館では木食はもっていないため、博物館・遺産センターから借りてきて展示する。

瀧口会長：中郡に家康ゆかりの鈴木家があって、古い蔵があった。高林邸と鈴木邸との繋がりもあるので、そういうのも掘り下げて地元にもこういう所があるということを紹介するとよいのでは。

飯室館長：今回の民藝では高林邸が深くかかわっている。ヤマハや鴨江アートセン

ター等にも協力してもらっていて珍しいものがたくさん出るようになって
いる。